

PREVENTION No.373

2025年1月16日開催

ギャンブル依存症回復施設における支援の現状

～山梨モデル～

池田 文隆(一般社団法人グレイス・ロード)

令和7年1月16日、アルコール関連問題予防研究会において、表題の件について講演の機会をいただきました。

ギャンブル依存症は、WHO（世界保健機関）で認定された病気（精神疾患）であるにもかかわらず、社会では当事者の資質の問題や自己責任と捉えられることで、当事者や家族が問題を抱え込み、必要な支援を十分には受けられていないのが現状です。

家族が当事者のギャンブル問題に金銭的、精神的に巻き込まれてしまうことや、窃盗や横領などの犯罪にまで発展してしまうこと、DVや育児放棄などとも密接な関係があることが病気の特徴として挙げられ、社会全体で関心を持ち、解決していかなければならない問題です。依存症の背景には、孤独や生きづらさなどの要因がある場合が多く、単純にギャンブルを止めるだけでは根本的な解決になりません。

支援には、その要因を取り除いていくためのアプローチが必要となります。

グレイス・ロードは2015年に山梨県でギャンブル依存症専門の回復支援施設を開設しました。開設以来、全国から相談や入所希望が多く寄せられています。

私自身も、過去にギャンブルをやめたくてもやめることができなかった当事者です。

ギャンブルが原因で借金を繰り返し、仕事や家庭生活にも影響が及び、最終的には生活が破綻してグレイス・ロードに入寮しました。

入寮後、ギャンブル依存症からの回復プログラムに取り組み、現在はスタッフとして、自らの経験を基に当事者の支援活動を行っています。

活動を行っていく中で、依存症の支援で重要なことは、施設や当事者を地域社会が受け入れていただくことだと感じています。

全国には依存症の回復支援施設が多数ありますが、地域によっては住民の方々から施設に対する反対運動が起こってしまうこともあります。

幸いなことに、グレイス・ロードは地域の方々に温かく迎え入れていただき、様々な地域行事に参加させていただいています。これは、当事者の回復にとっても効果的であり、今では、地域とグレイス・ロードが連携した支援は「山梨モデル」として注目をいただいています。ギャンブル依存症は、回復を信じ応援してくれる人が多ければ多いほど、回復する確率は高くなります。

これからも、地域との関係性を大切にしながら、当事者に対する支援、社会に対する正しい知識の普及啓発に努めたいと思います。